



THE GOSPEL NEWS

在日大韓基督教会
宣教100～110周年

標語

感謝の百年
希望の百年

(テサロニケ第1/5:18)

1963年9月20日 第3種郵便物許可 (毎月一日発行)

2016年12月1日(木) 第757号

発行所 福音新聞社 (1部100円)

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18

☎03-3202-5398 info@kccj.jp

発行人/金性済・編集人/金柄鎬

印刷所 青丘文化社

聖誕主日
説教

イエスと出会うクリスマス

＜マタイによる福音書1:18～25/ルカによる福音書 2:1～14＞

李明信 牧師 (山形ウリ教会)



クリスマスに浮かんでくる思い出は、幼い頃の期待感と楽しさである。聖誕前夜には聖劇とキャロルソングで楽しんで、寒さの中で聖誕の知らせのソングを歌いながら家々を歩き回った記憶が今でも心を暖めてくれる。

クリスマスはキリストに捧げる礼拝を意味する。イエスの誕生の話は、マタイとルカが記録している。マタイはイエスの誕生について次のようにいう。母マリヤはヨセフと結婚する前に、聖霊によって身ごもった。ヨセフは、神の教えを堅く守る人だったので、人前にマリヤの恥をさらさないようひそかに縁を切ろうとした。しかし、天使が夢に現れて言った。「ためらわないでマリヤと結婚しなさい。マリヤは聖霊によって身ごもったのだ。彼女は男の子を産む。その子をイエスと名づけなさい。この方こそ、ご自分を信じる人々を罪から救ってくださる。このことは神が預言者を通して語られた、次のことばが実現するためだ。『見よ。処女が身ごもって、男の子を産む。その子はインマヌエル(神が私たちと共におられる)と呼ばれる。』」目が覚めるとヨセフは、天使の命じたとおり、マリヤと結婚した。しかし、その子が生まれるまでは、マリヤに触れなかった。そして、生まれた子をイエスと名づけた。

イエス誕生は神がなさった事であるとマタイははっきり言っている。ヨセフとマリヤは御言に従った。神のみ旨は心で受け入れて従う者によって成し遂げられる。そして、イエスがこの地に來たのは御民を罪から救うためである。人類に神の御旨を教え、それに従って生きるようにイエスは來られたわけだ。インマヌエルは目に見えない神が、御子イエスを通して我々にはっきり分かるように見せてくださること。だから、我々はイエスを通して神と出会う。罪によって閉ざされていた神との関係を回復するためにイエスはこの地上に來られた。

イエスの処女誕生と復活は大事である。何故ならば、すべての人間は誕生と死で地上では終わるからだ。イエスの誕生以前に処女誕生があり、死以後には復活がある。それは創造主である神の神秘的な能力によることを示す。誕生と死、全ての人間の営みがイエスの中に含まれている。イエスの処女誕生と復活は絶えず攻撃を受けているが、それに対して聖書は一言も説明していない。その事実を受け入れられるとき神の神秘と能力の内に入ることができる。世を愛する神の摂理はイエスを主として信じ、見上げ、受け入れ、そして、従うことによって成し遂げられる。そのイエスを信ずる時に、神が私たちと共におられるインマヌエルの生を生きることができる。それは神の内に味わう平安

と喜びの生である。

ルカはクリスマスについて次のように言う。ヨセフは最初の住民登録のため、ユダヤのベツレヘムへ行った。そこで婚約者のマリヤは初めての子を産んだ。彼女はその子を布でくるみ、飼葉桶に寝かせた。宿屋が満員で、泊めてもらえなかったからである。その夜、町はずれの野原では、羊飼いが羊の番をしていた。そこへ突然、天使が現れ、主の栄光があたり一面をさっと照らした。これを見た羊飼いたちは恐ろしさのあまり震え上がった。天使は言った。「こわがることはありません。これまで聞いたこともない、すばらしい出来事を知らせてあげましょう。すべての人への喜びの知らせです。今夜、ダビデの町(ベツレヘム)で救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。布にくるまれ、飼葉桶に寝かされている幼子、それが目じるしです。」するとたちまち、さらに大ぜいの天使が現れ、神をほめたたえた。「天では、神に栄光があるように。地上では、平和が、神に喜ばれる人々にあるように。」

イエスがこの世に來たのはどの時代よりも暗闇の時代である。律法と世俗権力が支配していた不安と恐怖の時代であった。特に産婦を受け入れる宿がないくらい世のことで忙しく主に向かう心の余裕がなかった。結局、馬小屋で赤ちゃんを産んだ。「これは旅館に居場所がなかったからである」というが、愛も信仰もない当時のユダヤ社会の偽善的、利己的な状況を表わしている。ルカは、そのイエスを迎えたのは羊飼いだと伝える。クリスマスの話の中で羊飼いたちは美化されてきた傾向があった。当時の羊飼いは社会的、経済的に下層民に属する。にもかかわらず彼らにイエスの誕生が知られる。天使は言った。「恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。あなたがたは、布にくるまって飼葉桶の中に寝ている乳飲み子を見つけるであろう。これがあなたがたへのしるしである。」

イエス・キリストの誕生を準備しながら、神がその事件の主人公で選択した人々は、低い者たちであった。地上で人類の救いの歴史的なクリスマス話は、みすばらしい牛舎で開始された。その牛舎が人類史上、神の臨在が最も強くあらわれたところであったことを覚えなければならない。二千年前、この地上で最も低い所に來たイエス、私たちもそのように低いところに、ルーザーが隠れた所に訪ねて行かなければならない。その時、そこで、救い主イエスと出会う。イマヌエル！

みことばと讃美フェス開催

関西地方教会女性連合会主催で26回目



9月11日(主日) 大阪教会において、関西地方教会女性連合会「第26回みことばと讃美のフェスティバル」が345名(13教会)参加のもとで開催された。

第一部の礼拝は、関西地方教会会長金鐘賢牧師により「新しい歌を歌おう」という題目で説教がなされた。引き続き行われた第二部の讃美のフェスティバルが13教会の女性会聖歌隊が主に栄光を声高らかに讃美し恵まれた時間を過ごした。採点の間、金必順牧師による特別報告として「宮城県東北震災」ボランティアの映像と現地での体験報告があった。

尹聖澤審査委員長による審査総評があり、フェスティバル賞：大阪教会、讃美賞：堺教会、みことば賞：大阪第一教会をはじめ、各出場教会に賞状と参加賞が授与された。

(報告：趙和子)

青年会全国協議会

第54回定期全国協議会開催

青年会全国協議会の第54回定期全国協議会が、去る9月18日～19日にかけて、横浜教会にて行われた。雨天にもかかわらず、全国の教会から16人の青年代表が集まった。

開会礼拝から始まり、各地方会報告・各部報告・各部総括と進み、2015年度の活動を振り返り、達成できたこと・改善すべきこと・反省すべきことなどを、夜遅くまで話し合った。

19日は討議事項の検討から始まり、積極的に意見が飛び交い、集中した議論が行われた。討議事項の検討終了後、2016年度役員の選出と組織を行った。その後、予算を決め、閉会礼拝をもって第54回定期全国協議会を終了した。

組織は以下の通りである。

代 表：張品洙(川崎教会)、副代表：中野晃徳(名古屋教会)

総 務：呉眞雅(大阪教会)、書 記：鈴木正皓(名古屋教会)

渉外部長：梁政宇(東京教会)、渉外部員：吉松律子(名古屋教会)

企画部長：申美華(大阪教会)

企画部員：趙実樹(川崎教会)・吉松律子、広報部長：趙実樹

広報部員：申美華・中野晃徳・文野直美(豊橋教会)

地方会振興部長：呉眞雅

地方会振興部員：鈴木正皓・趙実樹・中野晃徳

財政部長：李智熙(大阪北部教会)

財政部員：呉眞雅・文野直美・梁政宇

(報告：梁政宇)

WCC「人種差別に正義をもたらす連帯」(Racial Justice Solidarity) プログラムに参加して(下)

— 4月19日～27日 —

金 必 順 (副総会長 / 堺教会)

ミズリー州のセント・ルイスでは、黒人居住地域のファーガソンを訪問した。2年前、日本でも度々ニュースで報道された18歳の黒人青年マイケル・ブラウンが警察官に射殺された町である。9月からの大学入学に備えていたマイケルは、8月9日、通りを歩いていたところ、その辺りをパトカーで巡回していた警官に質問され、口論になったらしい。警察側は、マイケルが銃を奪おうとしたため射殺したと言うが、マイケルは両手を上げていて撃たれたという目撃者証言がある。これに対し、マイケルと同じ世代の若者が抗議のデモを行った。警察は軍隊の迷彩服を着て、戦車と機関銃で重装備してデモを取り締まり、多くの若者を逮捕するという事態が毎日続いた。ここで、教会の対応は二通り分かれた。黒人教会は、住民と共に抗議に立ちあがり、白人教会は事の推移を見守った。デモはますます激しくなり、警察もさらに重装備になっていく中、デモの参加者が休むことができるようにと、場所を貸し、また食べ物を提供する白人教会が出て来たのである。私たちは、マイケルが殺された場所に行き、そこで祈りをささげた。翌日には、その地区にあるエデン神学校で、その地域の教会の白人と黒人、両方の牧師との話し合いの場がもたれ、抗議行動を続ける若者の代表たちにも会って話を聞いた。黒人教会の牧師の意見はこうだ。教会は変わらないといけないし、さらに、人種差別は経済の問題と密接にかかわっている。この現実に応える神学が必要だと。それに対し、白人教会の牧師は、教会が直面する葛藤を話した。一つの例を挙げれば、ある信徒が教会の入り口の階段の所で泣いていた。そこで、「どうしましたか」と聞くと、デモに参加する黒人たちが教会の中において、これはもう私の教会でない。そう言っ

て涙を流していた、というのであった。教会は一つだとは言っても、自分の立場を優先すると、どうしても一つになれない。そこで、牧師たちは教派を超えて、人種の別を超えて、地道な話し合いを続けているのであった。

セント・ルイスの次はシカゴに飛んだ。そこでは強制送還で家族がバラバラにされたヒスパニックの人たち、そして日本でのヘイトスピーチと同じように、反イスラムの動きに直面するイスラムの人々とも会った。トランプ氏が次期大統領に決まった今、ヒスパニックの人たちの悲しみはますます深まるのだろうか心配する一方で、イスラムの人たちは、この差別と偏見を社会科学的に分析し、暴力に訴えない生き方を広めていた。その冷静な態度は、正義を求める人々の共感を得ることになるはずだと考える。差別に打ち勝つためには、他のマイノリティの存在を知って共感すると共に、連帯することが大きな武器になるのではないかと、希望をもった訪問であった。



長野教会献堂式挙行 長老将立及び勸士就任式も同時に



2016年10月10日、長野教会において献堂式・長老将立式・勸士就任式が行われた。崔和植牧師の司会で行われた献堂式には、総会長金性済牧師が「レボトの井戸を掘る教会」(創26:15～25)という題で説教された。

長野教会は、神様のご計画の中で1991年に設立され、2005年に現在の教会の土地・建物を購入し、2015年には大々的なリフォーム工事を行い、今年の2月に被抱括宗教法人を取得・所有権移転を行い、念願の献堂式を恵の中で行うことができた。

引き続き金珍明長老将立式は中部地方会長全炳玉牧師の司式、張年玉勸士就任式は崔和植牧師の司式のもとに行われ、誓約、宣布が行われた。この度の行事のために名古屋教会の聖歌隊をはじめ、中部地方会、また韓国から来賓がお祝いに参席して勸勉、祝辞などを担当して下さった。

将立された金珍明長老は1961年韓国で生まれ、長野教会の開拓時から仕え、1994年から執事、2007年から接手執事として長野教会で奉仕された。

《関西地方会女性部・壮年部・青年部共催》 サンクスフェスティバル開催

10月16日(主)午後、関西地方会女性部・壮年部・青年部共催により、第7回サンクスフェスティバルが、大阪北部教会にて開催され、18教会から190名が参加した。

今回は、各教会の青年たちの信仰の向上と活性化のため、信仰の交わりと交流を望み掲げた「讃美によって一つになろう」の主題のもと、多くの青年たちと共に一つになって、主の恵みに感謝し、喜びの讃美と交わりの時を持つことができた。

第一部礼拝は朴鴻淳牧師(大阪南部)の「高い山に登ると」(マタイ17:1～8)という題の説教があり、第二部では、6教会の青年会による心に残る喜びの讃美が献げられた(平野・大阪北部・大阪南部・京都東山・京都南部・京都)。

その後、佐藤美香先生によるゴスペルについての講演と証し(ゴスペルとのかかわり)があった。そして、先生が作曲した歌、「神様が私たちに最高のものを与える」を先生の指導で会衆と共に讃美し、青年たちが前に進み出て声高らかに歌い喜ぶ姿に、参加者に感動と希望が見えた時間であった。

3部の交流会は、金英子女性部長(大阪)の司会で、各教会の女性会を中心に準備した真心のこもる食事交流会を持ち、豊かな恵みの時をもった。

今回は、各教会の青年たちの讃美の姿に心強いものを感じた。これからの活躍を期待しつつ、青年会の活動がより広がるためには、個教会、地方会、そして、総会の支援が必要であり、青年自らも頑張っていたきたいと心から願った。

(報告：関西地方会青年部)



台湾基督長老教会との 宣教協議会開催

去る2016年10月27～28日、総会会議室にて日本基督教団総会に来賓として参加した台湾基督長老教会(PCT)代表を迎え、1泊2日の日程で宣教協議会を行った。

PCTとは1973年5月、金得三総会長、李仁夏総務の時代に宣教協約を結んだものの、今まで特別な交流なしに40年以上の歳月が過ぎた。しかし、世界改革教会共同体(WCRC)の東北アジア部会(NEAAC)の活動を通して多少の交流があり、特に去る2015年11月の第3回マイノリティー問題と宣教国際会議に代表を派遣して来るなど、積極的な宣教協力の必要性を持つことで、今回の協議会を通して過去の協約精神をいかし、積極的な交流と協力をして行くことにした。

2015年に宣教150周年を迎えたPCTは、23の中会と、1,277の教会、23万人の信徒で構成されている。14ある原住民種族の福音化率は75%にものぼり、台北市の福音化率は11%、台湾全体の福音化率は6%だと言う。

今回の協議会に、PCTでは総会長の舒度大達(Sudo, Tada)牧師、総幹事の林芳仲(Lyim, Hong-Ting)牧師、企画局長の黄哲彦(Ng, Tiat-Gan)牧師が参加、KCCJからは総会長の金性



済牧師、副書記の金健牧師、宣教委員長の鄭然元牧師ならびに金柄鎬総幹事が参加した。通訳には郭京煥牧師と曹鈴姫牧師(高田馬場台湾教会)が奉仕に当たられた。

小グループ・セミナー開く UMC韓人牧会強化協議会の招請

10月18日～20日まで関東地方会の教育部と教役者会の主管で、東京・青山のウェスレーセンターにおいて、アメリカの



合同メソジスト教会(UMC)の韓人牧会強化協議会(総務：張学淳牧師)の協力のもと、小グループ・セミナーが催された。

牧会者を対象に開かれた今回のセミナーには30名ほどが集い、『会いたいです』という小グループ・リーダー用のテキストを用いて充実した時間を持ったが、その内容は理論的な内容よりも講師が直接小グループを導きながら得た牧会的経験を聖書的にどのように解き明かし、信徒の日常における苦悩を癒し、完全なクリスチャンとして立て、健全な教会を建て上げていくかという、多くの経験を分かち合う時間となった。

特に今回のセミナーに参加した牧会者たちが、牧会の働きと日常の出来事を共に分かち合いながら直接小グループを導く実践体験もした。また、今回のセミナーは関東地域だけでなく遠方からも参加するほど小グループ牧会に対して多くの関心を集めた。また、このセミナーのために、UMC韓人牧会強化協議会が必要なすべての経費を提供してくださり、講師に李成鉉牧師、李成鎬牧師、金翰成牧師、張学淳牧師が労を担ってくださった。

(報告：張慶泰牧師)

日本キリスト教会(日キ/CCJ)と 第16回宣教協力委開催

2016年11月15日、日本キリスト教会柏木教会にて「第16回日本キリスト教会との宣教協力委員会」が開かれた。在日大韓基督教会からは総会長の金性済牧師、副書記の金健牧師、宣教委員長の鄭然元牧師、総幹事の金柄鎬牧師、日本キリスト教会からは、この10月に選出された大会議長の富永憲司牧師、書記の芳賀繁浩牧師、渉外委員会から委員長の八田牧人牧師、書記の佐藤泰將牧師、委員の大石周平牧師らが出席した。

富永議長による開会礼拝後、前回の協力委員会と実務委員会の会議録を確認し、各々の教団の近況報告をなした後、協議に移った。

協議は、両教団からの発題があり、まず日本キリスト教会の八田牧人牧師が宗教改革500周年を経たプロテスタント教会の課題に触れながら両教団の宣教協約20周年については、2017年に開かれる記念集会への期待、マイノリティ宣教センター設立とその活動の協力と要望等が述べられた。次に在日大韓基督教会からは、金性済牧師が昨年11月に本総会が主催

した「マイノリティ問題と宣教国際会議」を受けて、「マイノリティ宣教センター」の設立が提起され、日本、世界の教会の協力を得ながら、来年4月の開設にむけて、獅子奮迅の努力をしている現状が報告された。

両教団は2017年に協約締結20周年を迎えるにあたり、記念集会を同年11月23日、関西地区において開くことを確認している。そこでは、青年層に焦点を当て、青年たちが教会に対して思うところ、課題、期待などをそれぞれの教団の青年数名ずつが発題をし、議論を交えながら教会の課題と将来を展望することを企図している。

(報告：金健牧師)



第3回常任委員会開催

障がい者差別問題「態度表明」を明文化

2016年10月14日(金)、大阪教会にて第3回常任委員会が23名の委員、1名の特別委員長が参席し、報告や議案審議が行なわれた。

主な決定事項は以下のものである。

- ①岐阜教会の「教会堂新築に伴う全国教会への募金」の件と「エコロフ基金融資保証」の件を承認。
- ②大阪第一教会の「宗教法人規則」変更の件を承認。
- ③朴寿吉牧師の在籍の件は、すでに日本基督教団に移っているので、移籍直前に在籍していた関西地方会において速やかに地方会からの転出を確認し、処理することを指示し、総会年金受給資格については、現行規則により、受給資格がないことを確認し、この件についても当該委員会が速やかに処理することとした。
- ④財政委員会からの議案の
 - ・「総会3億基金からの借入れをしている教会から返済計画を求める」件を承認。
 - ・東京教会に対し、宣教負担金の支払いを求める裁判については、関東地方会、臨時堂会長、総会役員が協議し、その意思決定は任委員会が下すことと、費用として100万円を予算化することにした。
 - ・2017年度の予算案が原案から調整し承認。
 - ・総会事務局の事務員に関する就業規則を財政委員会が作成することにした。
- ⑤治理委員会からの「東京教会の問題に関する調停委員会」設置の要請の件は、10月16日に治理委員会が下す予定の東京教会の5名の長老に対する判決を受けて、任委員会の責任で検討し判断する。但し関東地方会、東京教会の臨時堂会長とも相談をしてほしいという要望が付された。
- ⑥障がい者差別問題に関する「KCCJ態度表明」を福音新聞に掲載する件は、障がい者当事者と約束した文書の取り扱いについて、今一度、障がい者本人、該当牧師、総幹事の三者が会い、率直に教会と牧師の立場を説明し、取り扱へ変更を(教会名と牧師名を抜く事)お願いすること、現在この件について、西南地方会と総会任委員会の間で生じている誤解や確執を解くために西南地方会役員たちと総会役員たちとの話し合いの時を持つことを決議した。

船橋教会 趙重来牧師が召天 前総会長、船橋教会に15年間奉仕



船橋教会の趙重来牧師が、去る11月11日、多発性骨髄癌で天に召された。享年64歳だった。

故・趙重来牧師は1952年韓国の安東で生まれ、1984年牧師按手を受け、1991年に大韓イエス教長老会(統合)から日本宣教師として派遣されてからつくば東京教会で10年間仕えた後、2001年から船橋教会で15年間牧会された。日立教会の開拓には基礎を置き、水戸教会の兼任牧師としても奉仕し、関東地方会長(2003年～2005年)と総会長(2013年～2015年)を歴任された。

京都教会 高博名誉長老が召天 京都信明学校の校長として韓国語普及に貢献



2016年11月15日、京都教会の高博名誉長老が持病で天に召された。(享年73歳)

故・高博長老は1943年日本で生まれ、京都教会にて執事、長老として、また京都信明学校の校長や社会福祉法人向上社にも理事として仕えられた。関西地方会と総会にも監査として仕えられた。

川崎教会 金鴻植名誉長老召天 40年間2代目長老として教会奉仕



11月17日、川崎教会の金鴻植名誉長老が心臓疾患で天に召された。(享年87歳)

故・金鴻植長老は1928年韓国の慶北青松で生まれ、6歳の時渡日、1956年から川崎教会で執事、長老として仕え、社会福祉法人青丘社の第2代理事長、関東地方会や総会のために仕えられた。

故・金鴻植長老は、亡き父親金聖河長老に続いて2代目の川崎教会の長老として仕え、兄弟には金榮植牧師、金君植牧師、金明植長老、金芳植長老がいる。

<2016年「全国教役者と長老研修会」(7月18～20日)の主題講演文> 変革的弟子としての宣教と預言者の少数者の使命

琴 周 燮 牧師 (WCC世界宣教と伝道委員会総務)



2017年の宗教改革500周年を前にして、在日大韓基督教会の新しい改革と宣教の課題を振り返る「全国教役者長老研修会」に講師として招かれたことを光栄に存じます。

20世紀までの宣教の歴史は、葛藤と分裂に綴られ、時には、神の宣教を深刻に歪曲しました。そしてエキュメニカルとエバンジェリカル(福音派)に両分され、互いに議論し告発しながら宣教運動について否定的なイメージが深くなりました。わたしたちが過去を回顧し記念する理由は、過去から教訓を得、未来に向けて進むべき道を開くエネルギーの湧水とビジョンの境界標を見つけるためです。宗教改革500周年を迎え、在日大韓基督教会が新たな未来のために最も必要なものは何でしょうか。それは聖霊の中での「希望と情熱」に違いないでしょう。本日、わたしはWCCの新しい宣教声明が強調しているいくつかの新しい宣教神学的概念の中で、「聖霊の宣教」と「周辺部からの宣教」という概念に焦点を当て、「変革的な弟子道としての宣教と預言者の少数者の使命」という題でお話をいたします。

宣教的靈性

ヨハネによる福音書20章によると、イエスが十字架で死んだ後、弟子たちはユダヤ人からの迫害を恐れ、戸を閉めて屋根裏部屋に隠れていました(19節)。今日でも、イエスに従う弟子たちが世に向けて戸を閉め、自分たちの信仰共同体の維持だけを重要視する場合があります。特に、日本のように嫌韓デモ、人種差別の強化、軍国主義が復活する状況の中でマイノリティとして生きて行くことに恐怖を感じます。この時、弟子たちの中にイエスが来られて言われました。「恐れてはいけない」、「あなたがたに平和があるように。父がわたしをお遣わしになったようにわたしもあなたがたを遣わす」(21節)と平和と慰め、勇気の中で主は弟子たちを世の中に派遣されました。主は、弟子たちに「命の息」を吹きかけて、「聖霊を受けなさい」と言われました(22節)。そして弟子たちは、世に向かって扉を開けました。主が担った宣教の道に従って進みました。真の宣教は、教会が世と出会う時に開始されます。宣教は、わたしたちよりも先に世の中で臨在されている聖霊の働きを見出し、その働きに参加し、連合する時に生まれます。

宣教はこの世を愛され、生命を賜り、改める、それからわたしたちのその命を改める宣教に招いてくださる三位一体の神の御心より始まります。三位一体をついにまとめる「愛」は、全人類と創造の世界にあふれるものです。息子を世に派遣された宣教師である神は、すべての神の民を召し(ヨハネ20:21)、希望の共同体になるように力と希望と情熱を与えて下さいます。教会は、聖霊の力の中で生命をお祝いする一方、生命を破壊するすべての勢力に対抗し、それを変革させる使命を受けました。来る神の統治を伝える生きた証人になるために、「聖霊を受けること」(ヨハネ20:22)が重要です。

聖霊の中にある生命は、宣教の本質であります。わたしたちがこの働きに参加する理由でもあり、どのように生きて行くのかという問いの核心でもあります。靈性は、わたしたちの生活に最も深い意味を提供するし、わたしたちの行動に動機を与えます。それは、創造主から来る聖なる贈り物であり、生命を肯定して守る神聖なエネルギーです。これらの宣教の靈性は、神の国の民の靈的な献身を通して、神の恵みによって世を変えることができる変革の力動性を持っています。

こうした変革的な生命を生かす霊、つまり聖霊の力を受けることが改め始まります。今日、多元的な世界において、キリスト教宣教のための聖霊論的パラダイムをWCC世界宣教と伝道委員会が目指す理由でもあります。願わくば、在日大韓基督教会と共に、全世界の教会が宗教改革500周年を迎え、聖霊に満たされることを願っております。

真の弟子道

ヨハネによる福音書20章で、聖霊を受けた弟子たちが門を開いて世の中に出て行った時、彼らを待っていたのは、疲れ、飢え、貧しく、病氣と戦う人たちでした。弟子たちも、少数で、貧しく、自慢できるものは何もないものでした。ユダヤ教からは異端勢力として弾圧されました。しかし、弟子たちは「金や銀」はないが「ナザレのイエス」の名によって、何の希望もない民衆たちに会いました。一体、使徒たちはどのようにして、民衆と共に希望が豊かな新しい共同体を形成することができたのでしょうか。

例えば、アンティオキアはローマ帝国の属領であるシリアの首都でした。帝国の中では、三番目に大きな大都市だったので多宗教、多民族、多文化の社会でした。ステファノの殉教後、シリアに避難した信徒たちの中の一部がアンティオキアのユダヤ人とギリシャ人たちに福音を伝えました。信じる人が増えて、聖霊が臨みました。それに応じてエルサレム教会はバルナバを派遣しました。彼はサウルと共に働きながら大勢の人に教え、彼らは歴史の中で初めて「キリスト者」と呼ばれるようになりました。

使徒言行録13章において、初代教会の中心は、エルサレムからアンティオキア教会に移ります。使徒言行録の後半はアンティオキア教会が中心になって広がる世界宣教の歴史です。アンティオキア教会がしっかりと教会として形成され、本格的な宣教のために最初に行ったことは指導者を選ぶことでした(13:1)。その5人の指導者は以下の通りです。

バルナバは、ギリシャ系ユダヤ人でキプロス出身でした。エルサレムの教会が派遣した最初の宣教師として、その代表性と権威を持って初期のアンティオキア教会の基礎を据えました。

わたしたちが目指すべき第2の指導者は、黒人(ニゲル)シメオンです。彼はアフリカのニジェール出身の黒人奴隷でした。これはアンティオキア社会、いや、全ローマ帝国が大きな衝撃でした。アンティオキア教会は、この黒人奴隷出身を最高指導者として推薦したからです。福音の働きは、その始めから世の秩序と価値、身分と制度を根こそぎ変革する力を持っていました。

ルギアは、地の果てだと言われた遠くの辺境であるアフリカのリビアから来ました。最初から宣教的教会を念頭に置いた布石でした。彼はアフリカのアテネと呼ばれたクレネで良質の教育を受け、複数の言語を話すことができる人物でした。

マナンは、上記の3人の指導者たちとは異なり、非常に豊かな背景を持って、出身も華やかでした。権力者たちを詳しく知っていたので、彼らに福音を伝えるには適格者でした。最後に、ヘブライ派ユダヤ人の代表のようにサウルが選ばれました。

ある意味では、雑煮のようなこの5人の指導者たちが歴史上初めて異邦教会を建てました。そして、キリスト教をグローバル化し、アンティオキア教会を世界宣教のセンターとして発展させて、福音をもってローマ帝国を征服しました。この5人の指導者たちが宗教改革500周年を迎えるわたしたちに与える教訓は何なのでしょう。

1. **5人のリーダーシップの多様性に注目する必要があります。**それぞれ異なる出身と身分、文化と人種、地域的な背景により、様々な聖霊の賜物を発揮することができる構造でした。今日、わたしたちの教会も牧会者中心の単一のリーダーシップではなく、女性や信徒、宣教師や教師、青年と壮年が調和され、様々な賜物を思う存分活用できる賜物共同体としてのリーダーシップの構造に変化する必要があります。

2. **民主的な体制でした。**アンティオキア教会は、集団のリーダーシップによって動きました。使徒言行録においてパウロの位相はペテロに匹敵していました。しかし彼は、最後にサウロという名で謙遜に登場します。独断的なリーダーシップは、一見効率的には見えるが、リーダーが誤った判断をするか、腐敗した時、それを補完する装置がありません。

3. **靈的なリーダーシップが強調されました。**アンティオキア教会がリーダーを選ぶ時の基準は二つでした。それは預言者的なリーダーシップと教える能力でした。その他の世間的な価値は考慮の対象ではありませんでした。

4. **宣教的なオリエンテーションが確実でした。**行政と治理、経営と制度がありましたが、宣教的課題が最優先でした。5人の指導者は、数次にわたって自ら宣教師として働いたし、アンティオキア教会を宣教的教会として形成して行きました。そしてローマン世界全体を自分たちの教区として考えました。

5. **彼らは犠牲的な指導者でした。**彼らは、使徒たちに従って、主のために自分の生命を捧げるほど殉教的な指導者たちでした。その姿を見て、アンティオキア教会の信徒たちは、世界の富と栄えも追求せず、天の国の永遠な価値、永遠の生命を慕い、主が歩まれた十字架の道に沿って歩むことができました。

アンティオキア教会の5人の指導者たちもそれを成し遂げたとすると、この地でマイノリティとして生きるわたしたちも、この日本を神の国の福音の価値を持って、根こそぎから変革する夢を見ることが出来ます。信仰とはあり得ないことを信じることです。この世に、十字架の処刑と復活よりも不合理なニュースがどこにありますか。神さまが、あまりにもわたしたちを愛したので、天の御座を捨てて、この地に降りて、わたしたちの足を洗い、わたしたちの罪の代わりに処刑されたというニュースより信じがたい知らせがどこにありますか。そのお知らせを福音だと、真理だと信じて伝える人々が、わたしたちなのです。

愛する在日大韓基督教会の牧師と長老の皆さま！アンティオキア教会の5人の指導者たちもそれを成し遂げました。ですから、わたしたちができない理由は一つもありません。この地で、マイノリティとして生きるわたしたちが、大日本帝国を神の国の福音の価値を持って、根こそぎから変革する夢を見ましょう。唐突ですよ。しかし、信仰とはあり得ないことを信じることです。この世に、十字架の処刑と復活よりも不合理なニュースがどこにありますか。神さまが、あまりにもわたしたちを愛したので、天の御座を捨てて、この地に降りて、わたしたちの足を洗い、わたしたちの罪の代わりに処刑されたというニュースより信じがたい知らせがどこにありますか。そのお知らせを福音だと、真理だと信じて伝える人々が、今日、ここに集まったわたしたちなのです。

昨年11月、わたしたちは、東京の在日本韓国YMCAにおいて、在日大韓基督教会、韓国教会、日本教会、世界教会の代表たち約130余名が集まり、日本で増加しているヘイトスピーチと人種差別を懸念して「第3回マイノリティ問題と宣教に関する国際会議」を成功的に開催しました。1974年、1994年に開かれた会議の結果は、WCCが人種差別と嫌悪に対して世界教会の宣教と人権の次元で対応して行くことに影響を与えました。

WCCが、1960年代からフィリップ元総幹事の主導で「人種差別撤廃プログラム (Programme Combat to Racism, PCR)」を世界宣教と伝道委員会(Commission for World Mission and Evangelism)の中に設置して、闘争に乗り出すまでには、三つの国で起こった運動が大きな貢献をしました。マンデラが率いる南アフリカの「アパルトヘイト闘争」、アメリカのキング牧師が率いる「市民権益運動」、そして在日大韓基督教会の在日同胞の「人権運動」がそれです。故・李仁夏牧師がWCC PCRの副議長として仕えました。ですからWCC CWMEは、東京会議の要請を受けて、過去PCRの際の在日大韓基督教会とのパートナー教会と接触し、彼らは快く協力して下さいました。さらに、アメリカ教会の「Black Life Matters運動」と連帯するようになり、WCCが長い眠りから目覚め、人種差別の問題について、再び関心を持つきっかけになりました。

わたしは、在日大韓基督教会が少数であり、莫大な資金と教権はありませんが、神が世界の教会と宣教のために用いて下さっているという確信があります。なぜなら、在日大韓基督教会は、他の教会が理解することすらできない預言者的想像力を持った創造的少数で、神の国の福音の価値を世の価値と妥協することなく、変革の弟子道の道を歩んでいるからです。

福音には、受信者に向けられた神の一方的な愛があります。わたしたちが伝える知らせが「良い知らせ」なのか「悪い知らせ」なのかは、その知らせを受け入れる受信者が判断します。イエスさまが伝えた知らせは、ガラヤで苦しむ人々にとっては良い知らせでありましたが、エルサレムの権力者たちと宗教指導者たちにとっては体制を脅かす悪い知らせでした。彼らにとってイエスさまは、自分たちが享受していた権力と教権、経済的な特権に対しての脅威でした。彼らは自分のお金と権力、そして地位を永遠に守って下さる神さまを信じ、人間は神のために存在するのではなく、神が自分たちの幸福と安全のために存在していたのです。その特権を永遠に享受するために、彼らはこの世に來られた神の子さえもためらうことなく十字架につけたのです。キリストの弟子であるわたしたちのこのような世に向けて「良い知らせ」を述べ伝える使命を持っています。

わたしたちは、今の世の中でどのような知らせを伝え、わたしたちの目はどこへ向けていますか。イエスさまは、神の国の運動を神殿の中心よりで開始していません。神殿の外に捨てられた人々、病人、亡命者、野宿者、失業者たちの中で神の国を宣言しました。「貧しい人は幸いである。神の国は彼らのものである」と。わたしたちの目が周辺部の人々、マイノリティに向かっていれば、わたしたちは、福音を伝えることを決して恥ずかしく思っていないはずです。わたしたちの宣教が彼らに何か良いことを伝え、行なっているならば、わたしたちは勇気を出して、イエス・キリストの話に分ち合うべきです。

現在の世界は大混乱の時期を経験しています。弱い者たちは、何の保護装置もないまま墜落の断崖に押し出されます。少数者たちは憎悪の対象になっています。若者たちは二極化のため、人生を出発する機会さえも剥奪されています。世界中が不安の中で、戦争とテロ、憎悪と恐怖を通して自分たちの利益を守ろうと極端な選択をしています。無法地帯、弱肉強食の反文明の時代が21世に再現されています。

このような時代に、世は、わたしたちに向かって問うのです。「あなたたちは、イエスの弟子たちですか」「あなたたちは新天新地を夢見ていますか」「あなたたちは本当に神の愛を分かち合いますか」と。今日の世界と教会の危機は、わたしたちのようにキリスト者が弟子道を失い、金を崇拝するマンモニズムとの妥協に原因があると、敢えて断言します。教会を教会にならしめるものは、わたしたちが証する弟子道のレベルです。真の弟子道は帝国の教会、マンモンに染まった教会からは決して見受けられません。城門の外で、残されたキリストの苦難の十字架を負う宣教運動の現場で、改革と更新の風、聖霊の風が吹かなければならないし、わたしたちはこの生命の霊の充満を望むべきです。

周辺部からの宣教

イエスの時代に四つの集団が、自分たちこそイスラエルの回復と改革に代わるものだと競合しました。上品な「ファリサイ派」の人たちは、神殿の宗教的な権力だけを守ることができれば、神さまの預言者たちさえも処刑しました。そして、一日の食事を心配しなければならない人々に、到底守ることのできない律法の条項を強要し、それが真の信仰改革だと押し付けました。さらに、それを守ることができる自分たちだけが祭司だと主張し、地位を独占しました。その体制の根幹である安息日の戒めを揺るがすイエスを絶対にゆるすことができませんでした。

高学歴の「律法学者」は、世の権力だけを守ることができれば、復活の教理のような宗教的な信念を古い草履のように捨てました。彼らは、律法を筆写して再解釈するほどの知識を持っていたにもかかわらず、その学問をひたすら出世のためだけに使いました。彼らにとって、イエスさまの新しい洞察と神の国の福音は、世の中の原則と現実も知らず、ユダヤ教の歴史と教義にも合わない、一人の理想主義者として、すぐに消えて行く一場春夢（人の栄華はひとときで終わる事）に過ぎませんでした。

自分たちが偉いという自慢を持って生きる「ヘロデ党」員たちは、自分たちだけが世の正義のために働く信じていました。古い革命理論を踏襲し、変化することができませんでした。武装闘争を煽りながらテロも行いました。暴力に慣れながら人間性を失い、古い社会分析理論を強要する進歩を装った守旧勢力でした。「弱者のために」と言いながらも、日常の生活の中での行いは全くない進歩理念のファリサイ派の人々でした。彼らは、イエスを革命の裏切り者として見ました。

聖なる群れである「エッセネ派」にとって世の中は、希望がなく、腐り切って破滅するところに過ぎませんでした。審判と裁きから逃れるため、砂漠の洞窟の中に入って、世から戸を閉めました。世の中で何事が起っても、自分たちは知らない。自分だけがきちんと信じて天国に行けば良かったのです。もう少し上品な言い方をすると、霊的な修練を通して聖化を成し遂げることが先でありました。その霊的な能力だけにのみ、世を正すことができると、彼らは信じていたのです。だから戸を閉めて、自閉的な信仰を養って行きました。彼らにとってイエスは、まだ、霊的に未熟な者であり、信仰の社会的側面だけを強調している未熟な指導者だと見ました。

最後に、「イエス」です。安息日に池のほとりで病の中にいる患者を見て、通り過ぎることができず、癒すことによって、死に直面したあの方なのです。しかしイエスは、運がなかったと言わず、むしろ空腹の者、のどが渇いた者は誰でも来るように招待しておられます。「お金がなくても大丈夫だ」、「学びが足りなくても大丈夫だ」、「何の代価なしに葡萄酒と乳を持って行きなさい」と言われます。「わたしが代わりに死んでも大丈夫だ」と言われます。その生命をもって永遠に渴くことのない生命の水をわたしたちに与えて下さいました。それゆえ、誰よりも貧しかったわたしたちの生は、その方の生命のほとりで根を下ろし、やがて実を結び、わたしたちを通して国々や民族を癒すようにして下さいます。わたしたちを通して、すべての目の涙を拭い、新しい天と新しい地を開いて行く壮大な計画を持っています。

わたしたちの主であるイエスの「惻隱之心」は「憐れむ心」(compassion)です。主は、人の切ない痛みを見た時には、自身の腸が切れるほどの「断腸」の痛みを覚えました。その「惻隱之心」が奇跡を起こす一つの要因(動因)でした。その主の御心に倣って生きることが信仰です。その主の御心を広める所が教会です。その御心を回復するこ

とが改革です。

宣教とは、中心から周辺へ、社会の特権層から疎外された階層的に動く運動だと理解されて来ました。しかし、今は周辺化された人々が宣教の代理者として自分の核心たる役割を求めており、宣教の変革だと主張しています。宣教する者の役割の反転は、聖書的な土台を強く持っています。神さまは貧しい人、愚かな人、弱い人を選び（Ⅰコリント1：18～31）、正義と平和と生命の神の宣教（mission Dei）を進展させ、生命が繁栄するように働かれます。

世に向けた神さまの目的は、もう一つの世を創造することではなく、神さまが愛と知恵の中で、既に創造されたものを再創造することです。イエスさまは、ご自身に聖霊が下ったのは抑圧された者を解放させ、目の見えない者を再び見えるようにし、神さまが統治するヨベルの年を宣布するためである（ルカ4：16～18）と宣言されました。イエス・キリストは、生命を否定するすべてのものに対抗し、変革するために、社会の中で最も疎外された人々と関係を結び、彼らを抱きました。これは、蔓延した貧困と差別、非人間化を生んで維持させ、人間と土地を搾取して破壊する文化と制度を含んでいます。周辺部からの宣教は、権力の力学、グローバル制度と構造、そして地域的状況の複雑さに対する理解を求めています。キリスト教の宣教は、度々、引き続き周辺に押し出される人々と神さまが連帯しておられることを認識しないまま教育され、実行されました。したがって、周辺部からの宣教は、万物のために生命に満ちた世界を作るために働かれる神さまの霊から来る使命を教会の宣教使命として再構想するように招待します。

周辺部からの宣教は、中心部に存在することが自己の権利と自由と個性が肯定され尊重される制度の中に入るものであり、周辺部に生きることが、正義と尊厳から排除されることを知っています。しかし、周辺部に生きるということは、それ自体で教訓になり得ます。周辺部にいる人々は、中心から見ることができないことを理解することができます。弱い地位を持って生きていく周辺部の人々は、どのような勢力が自分たちの生存を脅かしているかを知っています。自分たちの生活の切迫性を最も詳しく認識することができます。したがって、特権層の人々は周辺の条件の中で生きていく人々の日常の苦勞から学ぶものが多いです。まさに、このことは韓国教会、アメリカ教会、世界教会からは見ることができないものです。しかし、在日大韓基督教会のマイノリティとしての抑圧と闘争の経験から、正しい教会、真の宣教とは何かを目覚めさせています。わたしはこれを「**預言者の少数者としての宣教の使命**」だと呼んでいます。

周辺部の人々は自分たちの生の中で、生き残るための戦いを通して積極的な希望と集団的な抵抗を持っている者、そして約束された神さまの統治を信頼するために必要な忍耐を持っている者になります。

神さまの宣教（missio Dei）を信じるということは、神さまは歴史と創造の世界の中で、具体的な時間と状況の実在の中で動き、正義・平和・和解を通して全地の生命を豊かにされる方であることを告白することです。ですから、わたしたちが聖霊を通して、神さまから持続される解放と和解の働きに参加することは、搾取し奴隷化する悪魔を分別して、仮面を剥ぎ取ることが含まれます。この地でマイノリティの権利を擁護し、彼らの正義・平和・生命のために働くことは、神さまの宣教の真の弟子道を実現することです。

教会の希望は、約束された神さまの統治の成就に基づいています。それは、神さまと人類とすべての創造の世界の間で関係を正しく回復することです。これらのビジョンは、終末論的な実在について語ることで、終末の以前、現在わたしたちが神さまの救いの働きに参加するように導きます。神さまの宣教に参加することは、仕えられるのではなく、仕えるために来られ（マルコ10：45）、権力ある者をその座から引き下ろし、身分の低い者を高く上げ（ルカ1：52）、相互の関係性と依存性の愛を実践したイエスの道に従うことです。したがって、神さまは生命の充満と尊厳性を破壊する勢力に対して戦うことを求めておられます。また、正義と人間の尊厳性、そして生命の価値を守る運動に参加し、率先するすべての人と共におられ、力を与えて下さいます。

神の国の統治の福音は、「正義であり包容的な世界の実現」という約束です。包容性は人類と創造世界の共同体の中で人間と創造の世界が相互に認め、また、それぞれの神聖な価値を相互が尊重し、維持させる為の正義の関係を目指します。それはまた、一人一人が共同体の生の中に、正しく参加するように促進します。キリストの中で洗礼を受けるということは、神さまの主権の下で共同のアイデンティティを見つけるためにあらゆる障害物を克服することにより、これらの希望の根拠を説明することに、わたしたちの生を献身することを意味します（ガラテヤ3：27～28）。ですから、人間の存在性を損なうあらゆる差別も神さまの観点からは容認されません。

イエスは、「後にいる者は先になり、先にいる者が後になる」（マタ

イ20：16）と約束しました。教会が社会の中で疎外された人々に徹底的に好意を施しながら連帯するということは、教会が神さまの統治の価値を具現することに献身していることを示していることです（イザヤ58：6）。教会が自己中心主義を生する方法として選ぶことを拒否して、神さまの統治が人間の実存に染み込む空間を確保することです。教会が私的な関係はもちろんのこと、経済的、政治的、社会的制度の中で、物理的、心理的、霊的な暴力を拒否することがこの世界で働く神さまの統治を証言することです。

しかし、現実的に宣教・お金・政治権力は、戦略的なパートナーになっています。わたしたちの神学的、宣教的言語は貧しい人々と連帯する教会の宣教について口先では多くのことを語っていますが、多くの場合、教会の宣教は本物のお金持ちとご飯を食べています。そして教権を維持するための財政確保のためにロビー活動をしながら権力の中心部に留まることに多くの関心を持っています。こうした事実は、既得権と権力を持っている人々に福音が何を意味するのかを省察するように特別なチャレンジを与えます。

教会は、イエス・キリストの中に啓示された世のための神さまの聖であり、生命を救う計画を実現するために召された共同体です。これは、共同体を破壊させる価値や習慣、制度、構造、罪性を拒否することを意味します。キリスト者は、あらゆる形態の差別の中にいる個人と共同体の罪性から立ち帰り、悔い改め、不正義な構造を変革するように召されました。これらの召命により教会に対して確実な期待が生じるようになります。したがって、すべての宣教活動は、すべての人間の存在が神さまの姿と聖なる価値を回復し、維持し守ることです。（イザヤ58章参照）

「残された者」たちの使命

「残された者（Remnants）」の思想は、旧約時代のバビロニア捕囚時代に発展した神学です。イスラエルの歴史は、出エジプトから始まり、ヤハウェの神さまは脱出したヘブライの奴隷たちと荒野においての契約を通して、彼らを解放された神の民として救いの働きの同伴者とされました。しかし、契約共同体は神さまへの不従順を繰り返しながら南ユダと北イスラエルに分断されました。エゼキエルは、分断された南北が罪を悔い改めるならば、神さまは再び統一させて下さると宣言しました。しかし、不正義と腐敗、そして絶え間ない権力闘争のために分断された南北は外勢により占領され、民は再び奴隷の身分に転落しました。

このような状況の中で、イザヤはバビロニアの捕虜たちの中から、主に対して忠実な信仰を捨てず守って来た「残された者」を思い出します。世界中の木々が「切られた」ように、この世に希望が見えなくても神さまの働きの中に希望の「切り株」を残して下さり、この「残された者」が、まさに主が彼らを通して働くことを願う「聖なる種子」だと宣言します。イザヤは、この「残された者」、つまり受難の僕たちが主なる神の使命（mission）、すなわち「主の恵みの年」（ヨベルの年）を宣言するためにバビロニア捕囚から逃れ、必ずエルサレムに戻って来るだろうと預言します。帰って来た者たちは、これ以上世俗的な力と権力に頼らないだろうし、「イスラエルの聖なる方である主」を「真実に頼るであろう」と宣言しました。したがって、歴史の切り株としてバビロニア捕囚から「帰って来た者たち」の使命(mission)は、「ヤハウェ信仰の復興」と「社会改革を通した平等な共同体の樹立」だったと要約することができます。これは、ヨベルの年の思想の実現という「残された者」[共同体の歴史的理想と連続線上]にあります。

わたしは、宗教改革500周年を迎え、在日大韓基督教会の宣教使命を眺望する聖書の根拠として旧約聖書の「残された者」を提示したいと思います。在日大韓基督教会の信徒たちは、旧約聖書の「残された者」のように、様々な苦難に耐えて、激動の現代史を生きて来ました。しかし、バビロニアの「残された者の共同体」が「ヨベルの年の新しい世界」に対する希望を抱き発展させることによってヤハウェ信仰を失わなかったように、受難の中で、この地の十字架を背負って一粒の麦のように犠牲になって来られた皆さんを通して、日本に真の福音が宣言され、神の国の統治が根付く驚くべき神の働きが成し遂げられるでしょう。

「残された者」は、祖国に帰れることができず、後ろに捨てられた共同体ではありません。彼らは神さまから選ばれた弟子たちとしてこの地に真の教会の樹立と民族の和解、日本の宣教と伝道のために「召された共同体」なのです。したがって、わたしたちはこの地のマイノリティではなく、選ばれた正義と平和と生命宣教のための使徒たちです。その選ばれた使徒たちとして、皆さんに革新的な弟子道の道を歩んで行く預言者としての使命が与えられています。

平和統一フォーラム開催 朝鮮キリスト教連盟に誠金伝達



左から副委員長李ジョンロ牧師、
中央康ミョンチョル牧師

世界教会協議会(WCC)の主催により、去る11月15日～17日、香港にて韓(朝鮮)半島平和統一のためのフォーラムが開かれ、朝鮮キリスト教連盟から委員長の康ミョンチョル牧師と李ジョンロ牧師ら4名と韓国基督教教会協議会(NCCCK)の代表団が参席した。

このフォーラムに参席した金柄鎬総幹事は、総会で毎年8月2週目の主日に行なわれる平和統一主日献金から1万ドルを、北朝鮮の水害復旧活動に使ってほしいと朝鮮キリスト教連盟に伝達した。

<年末年始業務案内>

総会事務所は12月26日～30日まで、及び新年1月3日・4日は休業いたします。

熊本被災地でコンサート 名古屋教会の“Rejoice”メンバー

名古屋教会の機関の中で最も小さな「Rejoice=喜び」のメンバー4名(フルート担当の小山慶佑、チェロ担当の李君子、アシスタントの金純子、フルート担当の李光世)が、90インチスクリーン、PC、プロジェクター等を車両に積み込み、2016年8月21(主)～26日(金)にかけて熊本大地震の大きな被害に遭われた被災地益城町を中心に、5ヶ所で賛美奉仕活動を捧げた。益城町総合体育館での賛美奉仕中、熊本教会の金聖孝牧師が応援に駆け付けられた。名古屋からカーフェリーで約13時間かけ、新門司港へ入り、更に九州自動車道をひたすら走り熊本教会を訪問し、その後慰問活動を行った。Rejoiceは2年前にも福島県郡山市の4ヶ所で慰問活動を捧げた。現在も毎月1～2回程度、名古屋市内のデイスサービスでの慰問活動中である。

(報告: 李光世長老)



熊本だより ～息の長い支援活動にご協力を～

10月28日、4ヶ月半にわたる御船町スポーツセンター避難所でのドリームカフェ(週3日)は最後の日を迎えました。今まで定期的に参加してくれたボランティアと避難所の住民、そして仮設住宅に移られた人々と共に「上を向いて歩こう」を歌って涙の閉店となりました。

今後は仮設住宅でのカフェを開催していきますが、その前に11月5日の秋まつりにドリームカフェを出店することになりました。

御船町スポーツセンターの秋まつりにドリームカフェでは、お得意のコーヒーと子どもと大人向けの二種類のくじ引きを企画しました。子ども向けは釣り糸のようなものを引っ張り上げると景品が持ち上がるという代物で、大人向けは東北教区エマオから送られてくるコタツと布団セット26個、電気カーペット9個という豪華なくじ引き(申し込み制)を企画しました。

スポーツセンター内ではカフェの中で作られたマイ箸、ビーズ細工等が展示され、体育館内では避難所生活の段ボールのベッドや着替えブース、新聞の展示などがしてありました。がらんとした避難所跡を見て、改めて、地震後半年を過ぎたことを思わされました。

まつりにはカフェの常連さんだった方々が手作りの花束をもって来てくださったり、「ありがとう。あなたたちから勇

気を頂いたから!」
と言って贈り物を
くださったり、「仮
設住宅も悪くない
よ」と笑顔で話して
くださる方、「やっ
ぱりこのコー
ヒーがおいしい」
と言ってくださる
方々に対し、みなさんの温かい言葉にこちらこそ勇気と力を
頂きましたという思いでした。



私たちは避難所でカフェをしている間、避難所の住民が仮設に移られる時の引っ越しの手伝いをしてきました。8月くらいから依頼があり、10月がピークで20件を越える引っ越しを手伝いました。それも、全壊や大規模半壊、長期避難地域で立ち入り禁止のところなど、社協やNPOのボランティア団体の入らないところが多かったので大変感謝されました。

今後は御船町と益城町の仮設住宅を中心にカフェの開催をしていきます。被災者支援は息の長いものです。今後とも、ご支援をよろしくお願いいたします。

在日大韓基督教会熊本教会牧師

エルピスくまもとセンター長 金 聖 孝

在日コリアン文化の創造と多文化共生社会を目指して、在日本韓国YMCAは皆様と共に歩みます。



東京◆ホテル：東京で一番安く便利な宿泊研修施設。フロントは日・韓・英語に対応、24時間営業。10名様～200名様の会議及び宿泊研修(50名)も可能。

◆スペースYホール：200席の多目的ホール。セミナー・コンサートなどに対応。
◆韓国文化教室(チャング・カヤグム・舞踊) ◆韓国語講座 ◆各種こどもクラス
◆YMCA東京日本語学校(3ヶ月～2年、短期研修)

関西◆にほんご教室(新規開講・募集中) ◆韓国民俗芸術科(舞踊・チャング)

在日本韓国YMCA <http://www.ymcajapan.org/ayc/jp/> *会員及び教職者割引有。詳しくはお問い合わせください。

東京韓国YMCAアジア青少年センター 〒101-0064 東京都千代田区猿樂町2-5-5 ☎03-3233-0611

関西韓国YMCAアジア青少年センター 〒537-0025 大阪市東成区中道3-14-15 ☎06-6981-0782

税 込	平日	休休前日
シングル	¥6,500	¥6,000
ダブル	¥10,500	¥9,700
トリプル	¥13,500	¥12,500

※朝食・コーヒー¥200(宿泊者価格)